高齢者エンパワメント調査・研究事業

「高齢協・自立生活センター統合版」

＊　この報告書には、比較可能なデータのみが記載されている。より詳しいデータ、報告については、「高齢者生活協同組合版」および「自立生活センター版」を参照のこと。

＊　以後、自立生活センターは略称 CIL を用いている箇所もある。

報告書の数値の見方

- それぞれの質問項目の回答者総数はｎで示している。
- 有意確率はαで示している。
- %の数値は、小数第１位、もしくは小数切捨で示している。このため、各回答の数値の合計がかならずしも 100%にならない場合がある。
- 回答は、単純回答（あてはまるものに○１つ）と複数回答（あてはまるものすべてに○）の種類がある。複数回答の場合、その回答割合の合計は 100%を超えることがあり得る。
- 図表やコメント部分での回答肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な回答肢は調査票を参照のこと。

Ⅰ　回答者の属性

【性別】

図 1　性別（高齢協）

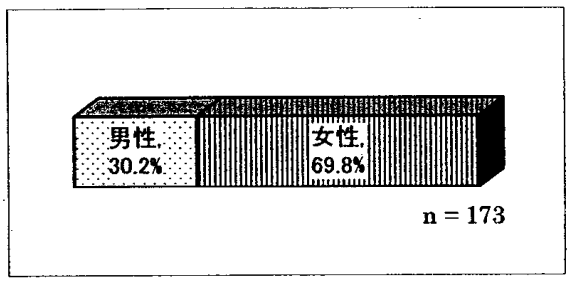
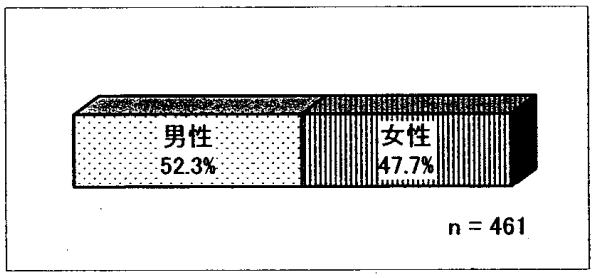


図 2　性別（CIL）



高齢協　男性 3 割、女性 7 割。

CIL　男性、女性の割合は、ほぼ半々。

【年齢】

図 3　年齢（高齢協）

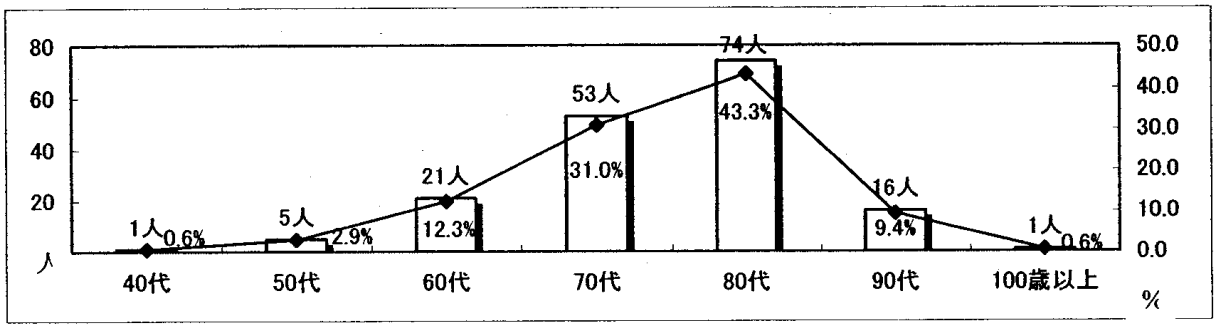
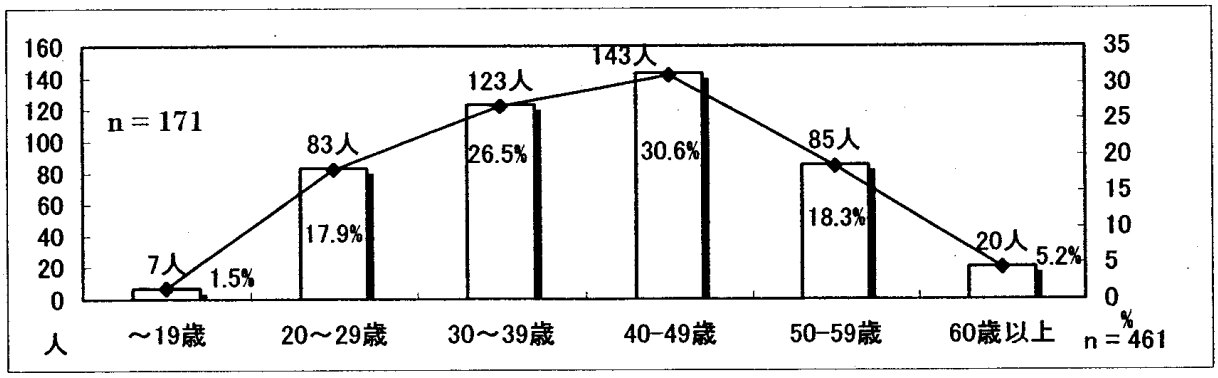


図 4　年齢（CIL）



高齢協　平均年齢は 78.44 歳。80 代が 4 割以上を占め、最も多い。

CIL　平均年齢は約 40.58 歳、30 代、40 代が最も多い。最高年齢 78 歳までと幅広い層の利用者がいる。女性の平均年齢の方が高い（女性 41.81 才、男性 39.45 才）。

【居住形態】

図 5　居住形態（高齢協）

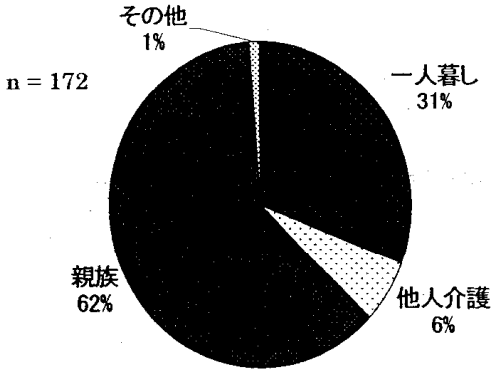
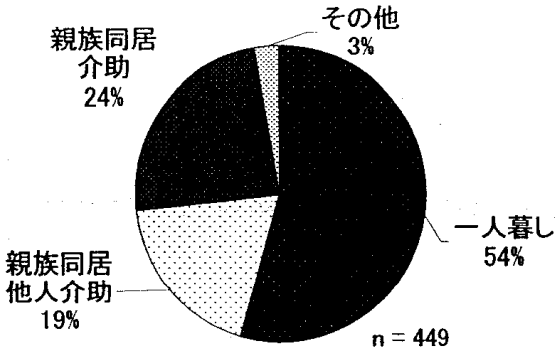


図 6　居住形態（CIL 版）



高齢協　62%の人が、主な介護者である親族と同居している。31%が一人暮らし。親族と暮らしながら、主に他人介護を受けている人は、6%と少ない。

年齢による居住形態の変化は、みることができない。

CIL　一人暮しをしている人が、半数を上回る。18.5%の人が親族と暮らしながら、他人介助を受けている。年齢が高くなるにつれて、一人暮しの人の割合も増える。また、同居している親族から介助を受けている人の平均年齢が他と比べて低い(CIL 版 3 頁図 5)。

【1人暮らしへの希望】

図 7　1人暮らしへの希望（高齢協）

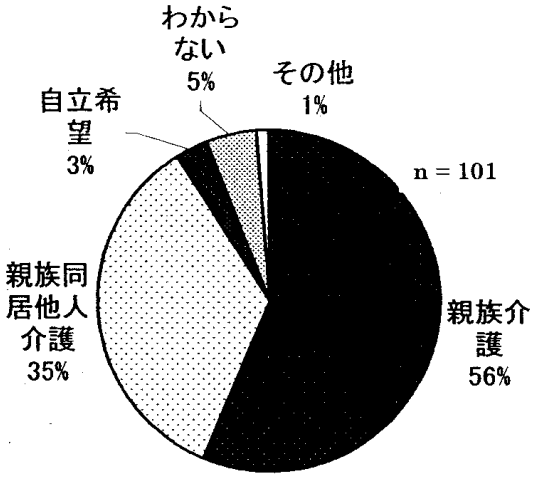
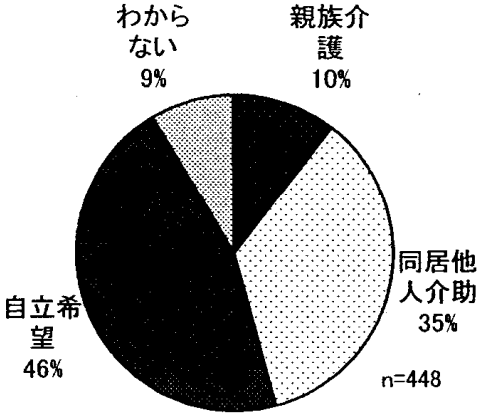


図 8　1人暮らしへの希望（CIL）



高齢協　同居する親族から介護を受けている人のうち、半数以上が今後も主な介護者である親族と同居することを望んでいる。一方で、35%の人が、親族と同居を継続するも、他人介護を望んでいる

1 人暮らしへの希望に、年齢による差は見られないが、障害による差を見ることができる。障害の重い人ほど、今後の希望について「わからない」を選択。障害が比較的軽い人ほど、「1人暮らし」を希望している(高齢協版3頁図6)。

CIL　同居する親族から介助を受けている人のうち、45%が一人暮しを希望、35%が親族と同居を継続するも、他人介助を望んでいる。

年齢をみると、一人暮しを希望する人の平均年齢が低いことから、一人暮しを希望する人は、現在親と同居している割合が高いようだ。一方、他人介助を中心に利用しながら親族との同居継続（「親族同居他人介助」）を選択している人は、配偶者との同居の割合が高いことが予想される

【日常生活動作の状況】

図 9　日常生活の状況（高齢協）

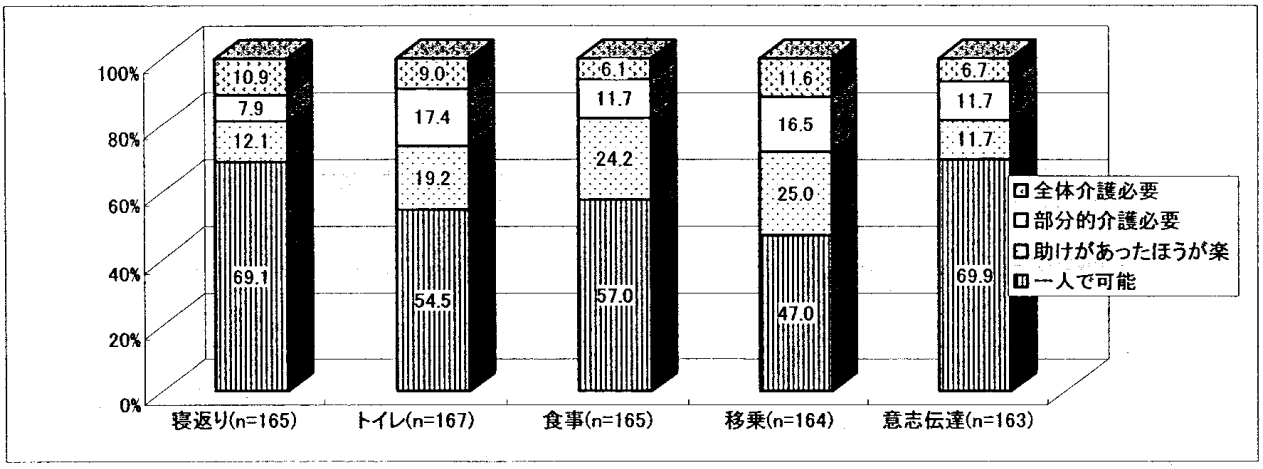
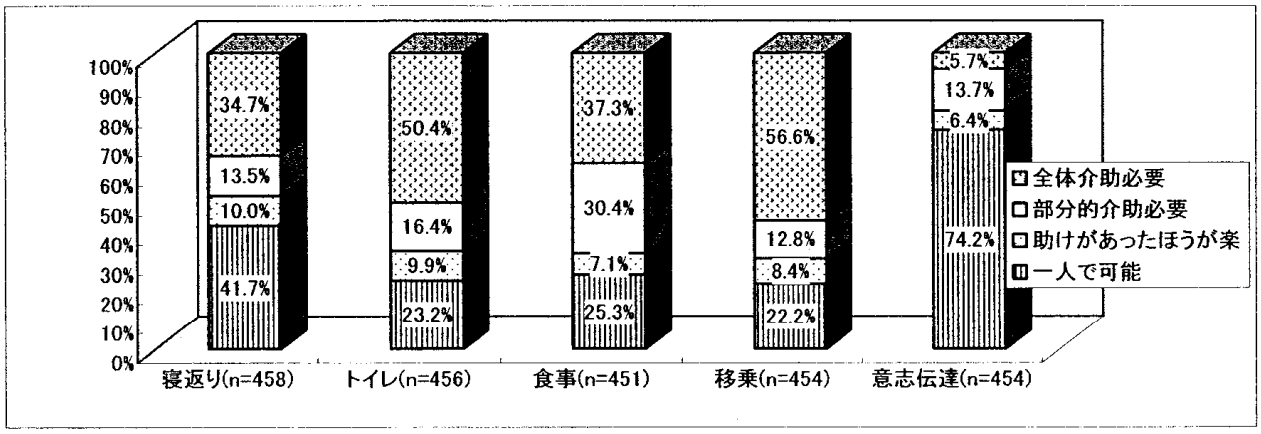


図 10　日常生活の状況（CIL）



高齢協　平均して 4 割強の人が、寝返り、トイレ、食事、に介護が必要。移乗、意思伝達では 3 割。障害が最も重いのは、親族と同居しながら、主に他人介護を受けている人。次に親族と同居し、介護を受けている人の障害が重く(高齢協版 4 頁図 8)、親族が多くの介護を提供していることがうかがえる。

CIL　平均して約 7 割の人が、寝返り、トイレ（小便）、食事、に介助が必要。意思伝達では、25%。日常生活動作に介助が必要な程度と、年齢、性別、居住地に有意な関連はない。

【1人暮らしの年数】

図 11　1人暮らしの年数（高齢協）

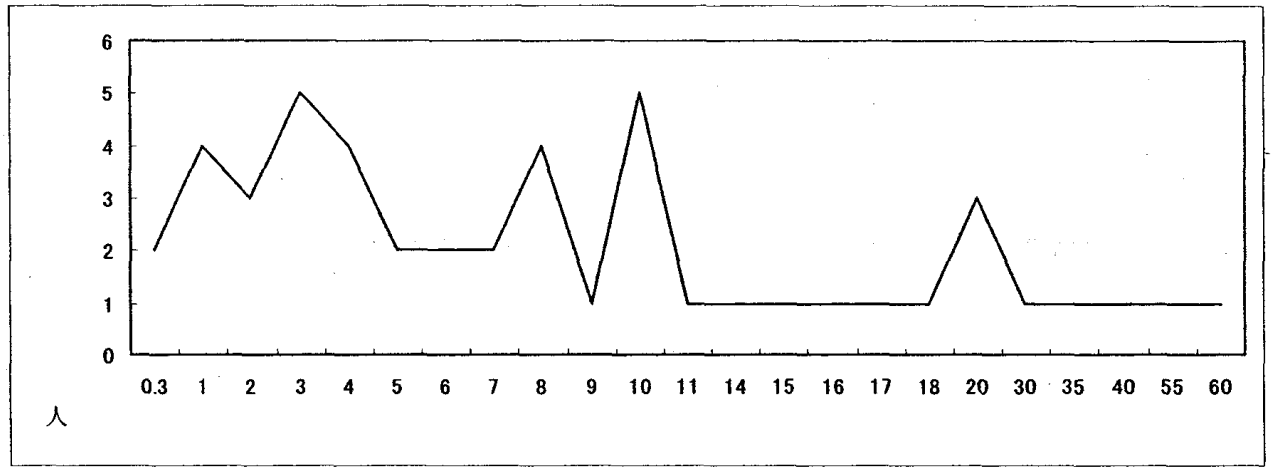
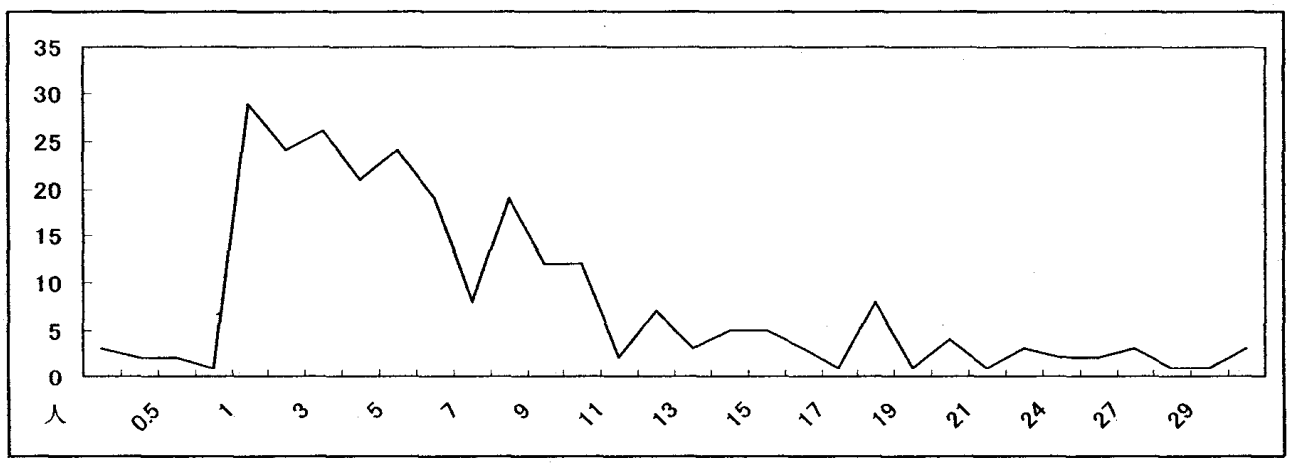


図 12　1人暮らしの年数（CIL）



高齢協　一人暮らしの平均年数は、11年。半数が、一人暮らしを始めて6年以内。3年目の人が最も多い。

半数の人が、一人暮らしを始めてから6年以内ということから、死別等によって一人暮らしを始めた利用者が多いことがうかがえる。

CIL　一人暮しの平均年数は、7,5年。一人暮しを始めてから1年目以内の割合が最も多い。一人で4人に一人は、10年以上一人暮しをしている。

51.6%が一人暮しをはじめて、5年以内。このことは、今回のアンケートを依頼した地方の自立生活センターの多くが発足してから時間がたっていないことの影響もあると考えられる。

Ⅱ　サービス利用状況

【利用時間】

図 13　利用時間合計（高齢協）

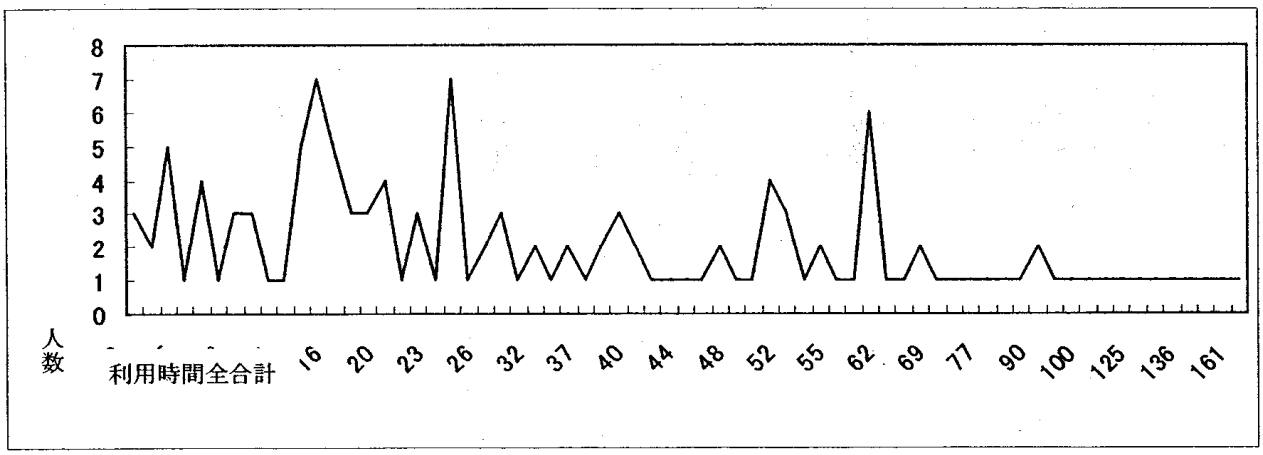
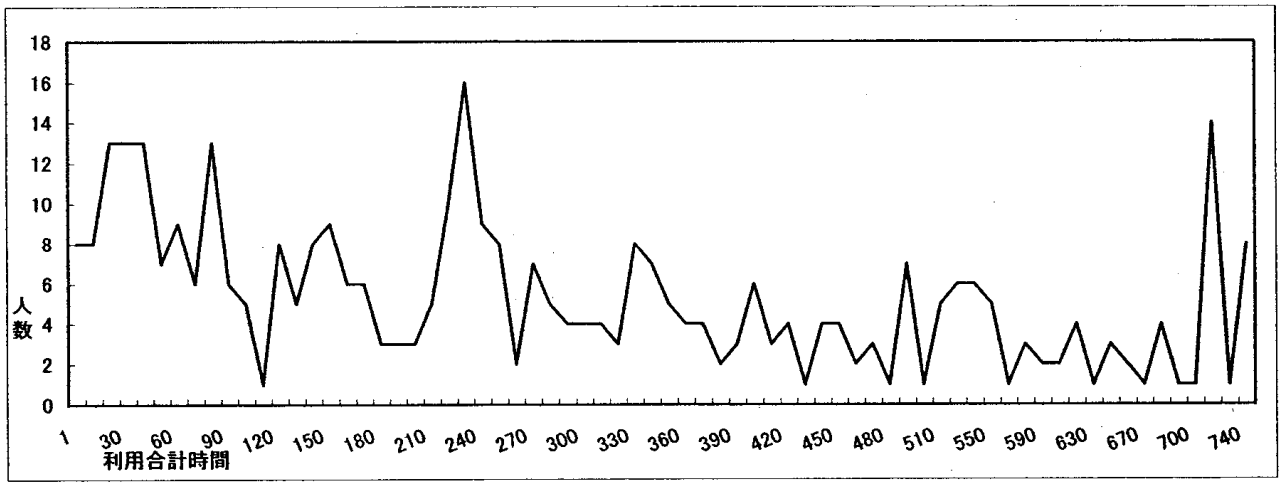


図 14　利用時間合計（CIL）

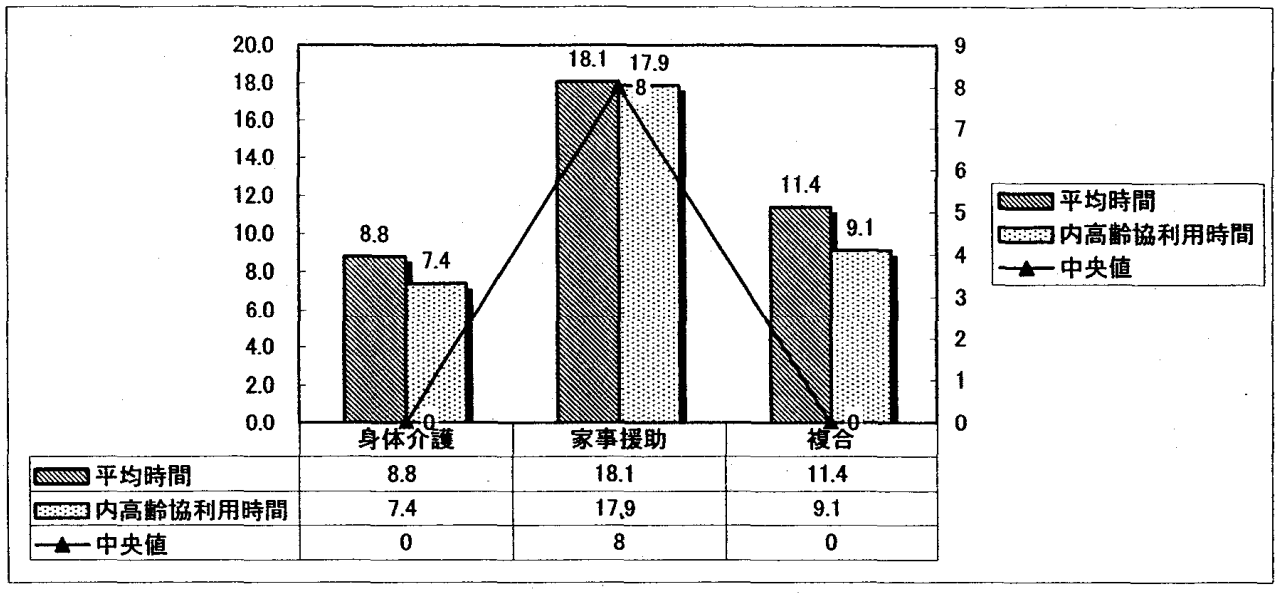


高齢協　介護サービスの利用合計時間の月平均は、39.65 時間、中央値は 28 時間。
最も多いのは、月に 14 時間の利用。親族と同居し主に他人介護を受けている人の合計利用時間平均が最も長い(高齢協版 8 頁図 14)。日常生活動作、性別には、統計的に有意な関連はない。

CIL　介助サービスの利用合計時間の月平均は 284 時間、中央値は 240 時間。
最も多いのは 720 時間（1 日 24 時間×30 日）と 230 時間～240 時間（1 日約 8 時間×30 日）の利用者。平均利用時間と、日常生活動作、居住形態、性別が統計的に有意な関連を持つ。日常生活動作では、全体介助の必要な人ほど平均利用時間は長くなる(CIL 版 7 頁図 12)。居住形態では、一人暮しの人の平均利用時間が長い(CIL 版 8 頁表 2)。また性別では、女性の方が平均利用時間が長い(CIL 版 8 頁図 4)。

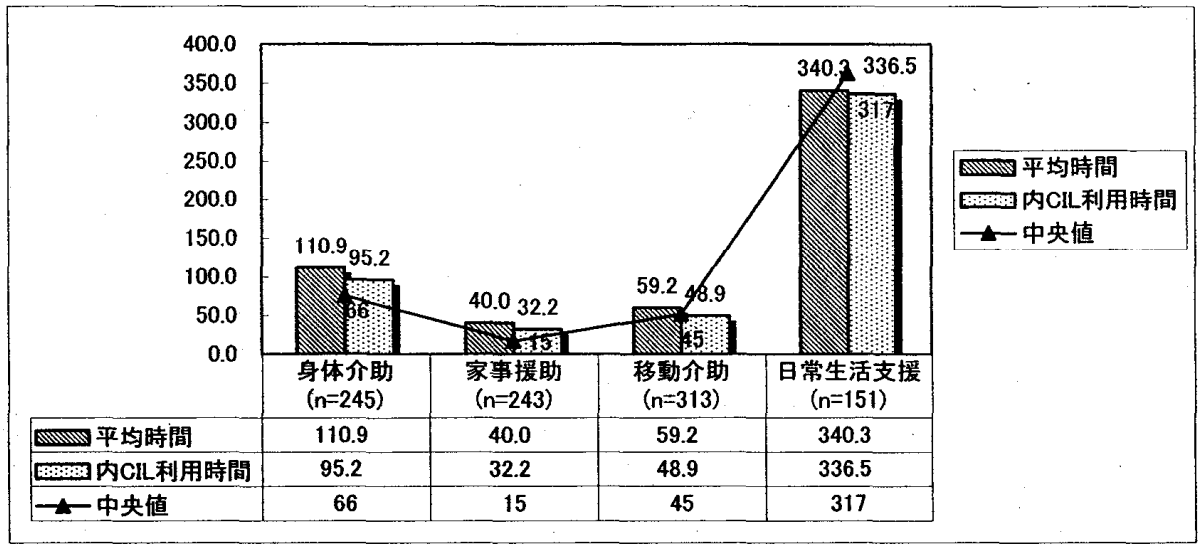
【内容別利用時間】

図 15　内容別利用時間（高齢協）



	身体介護	家事援助	複合
平均時間	8.8	18.1	11.4
内高齢協利用時間	7.4	17.9	9.1
中央値	0	8	0

図 16　内容別利用時間（CIL）



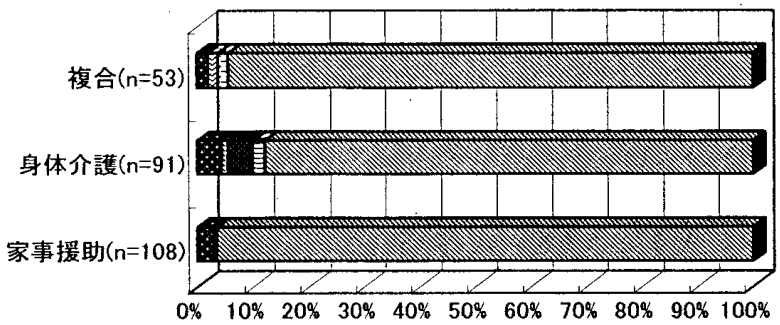
	身体介助 (n=245)	家事援助 (n=243)	移動介助 (n=313)	日常生活支援 (n=151)
平均時間	110.9	40.0	59.2	340.3
内CIL利用時間	95.2	32.2	48.9	336.5
中央値	66	15	45	317

高齢協　利用時間の内訳では、「家事援助」の平均時間が 18.1 時間で最も多い。全体の利用時間の中で、高齢協が、それぞれの利用時間の 8 割以上を提供しており、特に「家事援助」では、99%を占めている。

CIL　利用時間の内訳では、身体介助の平均時間が、110.9 時間で最も多い。全体の利用時間の中で、自立生活センターが、それぞれの利用時間の 8 割以上を提供しており、自立生活センター抜きでは生活が成り立たない利用者が多いことがうかがえる。

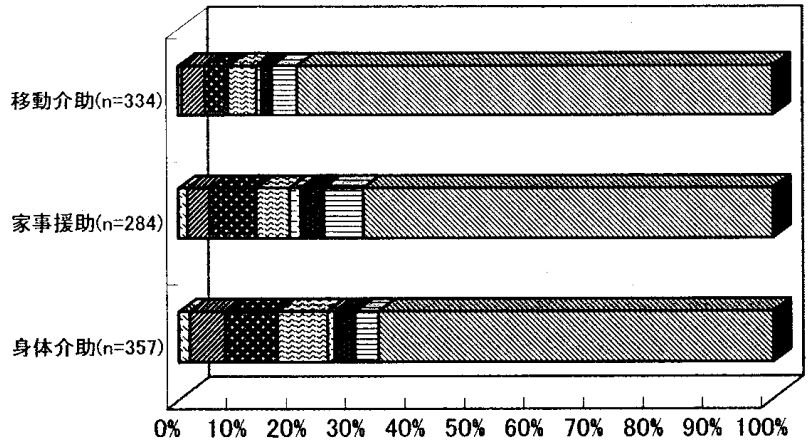
【サービス依頼先】

図 17　サービス依頼先（介護保険内）（高齢協）



	家事援助(n=108)	身体介護(n=91)	複合(n=53)
高齢協	96.3	87.9	94.3
公的	0.0	2.2	0.0
民間	0.6	4.4	0.0
その他	0.0	0.0	1.9
高齢協+公	0.0	1.1	1.9
高齢協+民	2.8	4.4	1.9

図 18　サービス依頼先（CIL）



	身体介助(n=357)	家事援助(n=284)	移動介助(n=334)
CIL	66.5	69.0	80.1
公的	3.9	6.7	4.2
民間	3.6	3.9	1.7
その他	1.2	1.8	0.8
CIL＋公	8.4	5.6	4.8
CIL＋民	8.7	7.7	3.9
CIL＋2つ団体	6.0	3.9	3.9
公的＋民間	1.8	1.4	0.6
CILを利用	89.5%	86.3%	92.7%
CILと他団体組み合わせ	23.1%	21.8%	12.6%

高齢協　家事援助で 96.3%、身体介護で 87.9%、複合型で 94.3%の人が高齢協からのみサービスを利用している。介護保険外では、高齢協のみからサービスを受けている人の割合が非常に高い(身体介護および複合型で高齢協のみが 100%、家事援助で 93.8%)。　障害の重い人ほど、高齢協と他の団体を組み合わせて利用している(高齢協版 10 頁図 17)。

CIL　身体介助で 66.5%、家事援助で 69%、移動介助で 80.1%の人が自立生活センターからのみサービスを利用している。身体介助、家事援助では 2 割以上の人が、公的団体、民間団体と自立生活センターを組み合わせてサービスを受けている。
自立生活センターの利用者がもっとも、障害が重い(CIL 版 11 頁図 15)。